



DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siege : Oden Building 21-4

Higashi Marunouchi Tsu JAPON

N° 41 juillet 1997 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

## 1997年度総会

### 「フランスの日本年」関連事業など決める

1997年度の三重日仏協会総会（第11回）は7月6日、津市の都ホテルで開催されました。まずフランス訪問中の武村会長に代わって藤田専務理事が、「10年前の雪の日の創立総会のことを思うと感無量だ。みんなの協力でここまでやって来られたが、11年目からまた新たな発展が期待される。親しみやすい事業を心がけて行こう」とあいさつしました。そして各議案を原案通り可決（当日欠席の方には議案書を送付）、とくに今年は「フランスの日本年」に当たり、リヨン市から本会に対し、箏曲演奏家一行の派遣が要請されているため、関連の予算措置などを決めました。そのあと、「ほんとの日仏相互理解をめざして」のテーマでフランス人ゲストらによるフォーラムが開催され、会場とともに熱のこもった議論を展開（詳細は2～3頁に）。さらに70数名という過去最高の参加者で盛大な『パリ祭』を楽しみました。

### 「リヨンの日本週間」視察旅行を募集

11/16～23（8日間）あなたも参加しませんか

11月18日夜、リヨンのベルクール広場で開催される「日本フェスティバル」の開会行事に招待参加するのを目玉に、グルメと織物の古都リヨンとパリを訪問するという、旅行社の企画では求められない日仏協会ならではのプランです。リヨン滞在中、プロバンスまたはブルゴーニュへの小旅行も可能です。

日 程 11/16(日、昼ごろ)出発・夕方パリ着、リヨンへ、リヨン滞在(4泊) 20(木、午前)パリへ(2泊)

11/22(土、午後)パリ発 11/23(日、午前)帰着 日本発着は名古屋または関空いずれか

参加費用 210,000円～220,000円（参加人数により多少の変化あり）

問い合わせと申し込み事務局 滝沢まで（夜間）059-225-2517（昼間）059-227-1250

## 記念フォーラム “ほんとの日仏相互理解のために”

7月6日、総会に引き続いて開催された「記念フォーラム」のあらましを紙面でお伝えいたします。発言者としてフランス人三人。松阪市在住9年、三重日仏協会理事でフランス語教授のジャン＝フランソワ・ダメモさん、昨年末夫君と来日したばかりの20代の女性・シャルル・シャルル夫人（津市）、そして岐阜から元ブザンソンの映画館支配人でフランス語教授のジャン＝フランソワ・マスロンさん（昨年春来日）にご参加いただきました。そして進行役は通訳を兼ねて、本会会員で奈良日仏協会事務局長の仲井英昭さんをお願いしました。フォーラムは先ずフランス人側からマスロンさんが問題提起として、日本で暮らしての印象や感想などを文書発言され、他のお二人がそれを補足する形で始められました。

### マスロンさんの発言

2年前、日本に来たときは、すべてがちがう特別の世界のような気がした。「火星人か?」。その後、住んでみると、西洋と多くの共通点があることがわかってきたが、やはり違いも多い。

まず驚きは、町の汚いこと。いろんな建物がごちゃまぜで、広告ばかり目につきアメリカナイズされた感じ。絵はがきで見た、美しい日本はどこにと思った。しかし間もなく日本人の礼儀正しさ、日常生活の繊細さ、とくに女性のやさしさに気づく。さらにお店のサービスの良さ、商品がいつでもどこでも豊富（フランスは昼休み、日曜など店の休みが多い）。人の多さにも驚いた。しかもその群衆は停滞せず流れているのが興味深い。

フランスでは「ウイ、ノン」をはっきりさせることがまず第一だが、日本人の返事はウイかノンか結論がなかなか出ない。われわれは対立や、違いのなかで物事をとらえることに慣れており、ときにはcohabitationがあったとしても、つねに緊張感があるが、その点、日本には緊張よりも（異物同居の?）やすらぎがある。古寺のまん前にジュースの自動販売機が置かれていたり、テレビ番組中の突然のCMの挿入なども、そのあらわれか。

最後に、フランスではいつも意見をのべ、文句を言い、相手に反対論を唱えるのが普通だが、日本人は消極的、受動的でいつも我慢しているようなのはなぜか?

### 補足発言

#### シャルル夫人

やはり人が多いのがストレスになる。休日は静かなところへ行きたいが、どこでも人がいっぱい。建物に統一性のなく、雑然としていることは私も同感だ。騒音もひどい。あのパチンコ屋の音には、よく耐えられるものだ。アメリカ文化の影響を感じる（とくに若者に）。日本人の家族関係について、もっと知りたい。「安全」は申し分ない。フランスでは女性一人の夜歩きなど考えられないのに。

#### ダメモさん

（パリっ子で松阪暮らしだが）日本の大都会には、とても住む気がしない。日本はもっともっと環境問題を重視すべきだと思う。

### 会場とのやりとり

（宗教問題）●私ども日本人にとってキリスト教、教会というものが理解しにくい。日本人は仏教徒といっても、その意識は低い。お三かたは、意識や行動の根底で、どの程度クリスチャンであられるか、うかがいたい。

シャルル夫人：〈Pas du tout!〉全然。

マスロンさん： 皆さんが仏教徒であられる程度に（笑い）。

ダメモさん： 私はいま、お寺に住んでいる（笑い）。いまはフランスでも、毎週教会へ行く人は少ない。お年寄りが多い。田舎ではもう少し信仰の厚



い人が多いかな。

(cohabitationについて) ●マスロンさんの提言のなかに〈cohabitation〉という言葉がでてきたが、あれは二つのちがった政治勢力の妥協的共存という意味か？

ダメモさんほか： いま保守のシラク大統領のもとに、左派のジョスパン内閣が生まれ、いわゆるcohabitationの現象が生じている(かつてはミッテランとシラク)。しかしこの言葉はほんらい「同棲」を意味するもので、ここでは違った性格のものが一時的に妥協して同居するという意味。

●フランス人はすべて日常生活でも、まず自説を主張して対立点を明確にしたうえで妥協点をさぐるようだ。日本人は最初から対立をさけて曖昧な解決をしているのではないか。

(建物、景観について) ●フランスの古い建物は確かに美しい。しかし、あんな建物で人が生活するのは気の毒な感じがする。日本人は一生涯働いても土地付きの家に住みたいのだ。

シャルル夫人： 家のために働くよりバカンス。日々の生活を充実させたい。

マスロンさん： フランス人も持ち家には十分欲求をもっている。

●かつて日本の家並は世界的にも美しいと言えた。明治以降、都市計画が不足でこうなった。パリも周辺部では、荒涼たる風景が見られる。●木、紙、土で作られた日本建築は美しい。プラスチック、コンクリート、無計画、これが汚さの元凶だ。

(定年制について) ●フランスでは定年が延長されても、日本人のように「もっと働けてうれしい」というように歓迎されないと聞く。労働を苦役、神

からの罰と考えているのか。社会保障がよくよく進んでいるのか？

シャルル夫人ほか： 近年、年金制度が充実し、37.5年働けば、最終給与額の90%にあたる年金が受け取れる。さらに保険もあり、ほぼ100%と言える。

(フランス人の知日度) ●フランスの家庭で、「日本人は肉を食べるか、いつも何を着ているのか」などと聞かれた。どの程度、日本のことを知っているのだろうか？

マスロンさん： だいたいフランス人は地理に疎い(笑い)。中国と日本を混同する人もいる。一部の人は文学、禅など日本文化を積極的に評価しているが、一般には、人口が多い、24時間働く、車など工業製品がすぐれていて安いから警戒を要する、といった理解。

(ワインについての質問に)

シャルル夫人： 日本人はイタリーやスペインや、あちこちのワインを飲むようだが、ワインはフランスに限る(笑い)。

ダメモさん： フランスでは、まったく日常のもので何ら特別のものではない。朝9時にカフェでパンとボジョレを注文しても少しの違和感もない。

(「アメリカナイズ」への反論) ●日本の若者のファッションがアメリカ的との発言があったが、必ずしもそうではない。とくに若い女性たちはパリやイタリーなど、西洋のものをうまく取り入れていると思う。(このテーマではかなりのやりとりあり)  
(「日本人の東京」と「フランス人のパリ」についての質問に)

ダメモさん： 松阪にいても東京は魅力ないが、フランスでは地方の人にとってもパリは特別の存在。美しい都、芸術の都。

マスロンさん： パリには美しいところが多いが、行かなくてもいいところもある。サクレ・クールなどはパリコミューンのあとでできたもので美しくもない。デファンスは論外。エッフェル塔は遠くから眺め、ノートルダムは絵はがきで十分だ(笑い)。

## 6/7 『全国日仏協会の集い'97』 福岡市

上記の集いが福岡日仏協会創立40周年記念を兼ねて6月7日(土)午後、福岡市城南区の末永文化センターで開催され、全国から21の協会・約40名と地元の多数のメンバーが参加しました(本会からも代表1名出席)。まず福岡日仏の会員で作家・精神科医の帯木蓬生(はきはき ほうせい)氏と、最近開館したパリ日本文化会館館長の磯村尚徳氏が記念講演をおこなったあと、各地日仏協会の代表によるパネル・ディスカッション「21世紀にむかう日仏協会の新生面」と続き、舞台と会場ともに熱心な討議が展開されました。また夜はウーヴリュウ駐日フランス大使、トランキエ総領事、福岡市長らも参加して祝賀会が開催されました。次回は'99年広島市で開催の予定。

大使 ジャン＝ベルナール・ウーヴリュウ  
ならびに「福岡日仏協会」



歓迎会であいさつする  
ウーヴリュウ大使

### トランキエ総領事が離任、後任はナウム氏

大阪・神戸フランス総領事のミシェル・トランキエ氏はこのほど4年間の任務を終え、ベトナム・ホーチミン市駐在総領事として赴任された由、本会会長に宛ててごあいさつをいただきました。後任にはかつて在日フランス大使館に文化参事官として勤務されたこともあるアラン・ナウム氏(Alain NAHOUM)が着任されました。

## CONCERT

### 本会会員のピアニスト3人が出演

#### 『みえ』のピアニストたち コンサート

8/6(水) pm6:30 三重県文化会館大ホール 3,000円(自由席)

三重県を代表する10人のピアニストが5台のピアノを使い、ソロ、2台4手、4台8手、5台10手、5台20手などによる曲を演奏するという豪華で珍しい音楽会。三重日仏協会のメンバーで、大廣朋子さん、菅原美枝子さん、針谷宏弥さんが出演されます。演奏曲目は

大廣/サンサーンス:スケルツォほか

菅原/ラフマニノフ:2台のピアノのための組曲第2番

針谷/フォーレ:ノクターン第7番

## DISQUE

### 伊藤隆之さんが初のCD

四日市市出身でパリで活躍中のピアニスト・伊藤隆之さんが、このほど現地で初めてのCD(「新進ピアニスト紹介」ドビュッシー、フォーレ、スクリアピンの曲を収録)をリリース、好評を得ていますが、日本にも7月下旬入荷の予定です。ご希望のかたに原価3,000円でおわけいたします。本会会員の伊藤さん(☎0593-37-2248)まで。